

【南九州税理士会会長賞】

「幸せの連鎖」

宮崎県立宮崎西高等学校附属中学校

三年 中武 源 貴

僕の父は自衛官だ。勿論給与は税金から出ている。父は仕事についてあまり語らない。しかし、幼い頃に聞いた話が、今でも心に残っている。

「仕事をするには想像力が必要だ。お金を頂くということは責任の重いことであって、それに関わる人々の顔を想像していかななくてはならない。」

当時の僕にはその意味が上手く読み取れなかった。しかし、沢山の働く人の姿を見ながら、その意味がだんだんと分かるようになってきた。

働くということは、社会の一員として動くということだ。社会を守っていくためには、「想像力」と「思いやり」が必要なのだと、父は教えてくれたのだと思う。

果たして「思いやり」とは何だろうか。

僕は図書館を頻繁に利用する。幼い頃から母に連れられて、沢山の本を読んできた。それによって、充実した時間が過ごせ、僕の将来のためにもなったと思う。

僕は身に余る程の恩恵を受けてきたが、そのお金がどこからくるのか、考えたことはなかった。宮崎県立図書館を例に挙げると、年間で二億二千五百七十四万七千円もの税金によって賄われているということだった。

これは、全て、多くの納税者の「思いやり」のおかげだ。

このように「思いやり」は、僕達の見えていないところでも、僕達に多大な恩恵を与え、僕達を強固に守っているのだ。

僕達の生活は本来、非常に脆いものだ。ライオンは、狩りができなければ、飢え死にすることだってある。人間であっても、「思いやり」が無ければ、僕達は、簡単に、押し潰されてしまうことだろう。その生活を、人間独特の、「社会」が助けてくれる。その「社会」は、一人一人の思いやりによってしか、成り立つことはあり得ないのだ。

一人一人の思いやりが、社会を守り、そして、一人一人の生活を保償していく。この、「幸せの連鎖」を回しているのが、形としての税金だ。そして税金は、お金ではなく、「一人一人の思いやり」の形なのだ。

僕は将来、どんな仕事に就いたとしても、社会の一員として、想像力と、思いやりのある働きをしていきたい。そして、社会と共に、「幸せの連鎖」を回していけるよう、自覚と、責任のある行動をしていきたい。助け合いの力によってしか、人々の生活は守られないからだ。